

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



調布市は
「2050年ゼロカーボンシティ」
を目指しています

調布市

下水道ビジョン

概要版

令和 3(2021)年 3 月

調 布 市



計画の概要

策定の目的 (本編第1章P13)

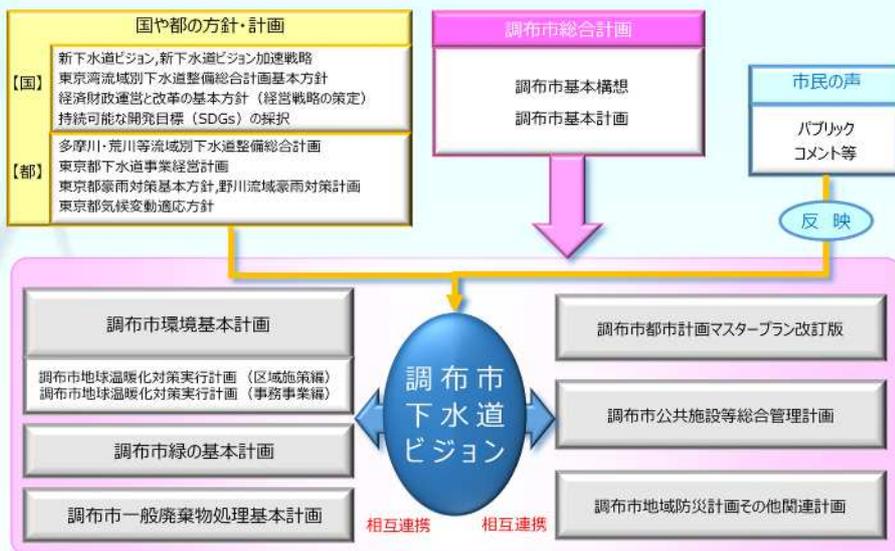
調布市では、下水道分野の総合的かつ計画的な取組を図るマスタープランとして、平成23(2011)年3月に、平成23(2011)年度から令和2(2020)年度までの10年間を計画期間とする「調布市下水道総合計画」を策定しました。策定後10年間に、頻発する異常気象や激甚化する災害に対する下水道の重要性が一層高まるとともに、下水道施設の老朽化に伴う機能維持の必要性が更に増大しています。また、今後の維持費の増加や中長期的な人口減少に伴う下水道使用料収入の減少が予想される中、令和2年度から公営企業会計へ移行し、限られた経営資源を有効に活用した事業運営(マネジメント)への転換を進めています。

このため、次期下水道総合計画策定にあたっては、「調布市下水道総合計画」のこれまでの達成状況を踏まえつつ、下水道を取り巻く時代情勢や社会的要請の変化を受けた取組や長期的検討事項を整理しました。さらに、財政シミュレーションをはじめ今後の経営状況の分析を行うことで、経営的な観点も含めた計画とするべく、「調布市下水道ビジョン」に名称を改めました。また、計画策定にあたっては、学識経験者等で構成する「(仮称)調布市下水道総合ビジョン策定等検討委員会」を開催し、検討を重ねました。

計画の位置付け (本編第1章P14)

本ビジョンでは、「調布市基本計画」を上位計画とし、国や東京都の直近の計画・方針等を踏まえ、「調布市環境基本計画」をはじめ密接な関係にある関連計画と相互に連携させながら、今後の下水道事業の基本方針や施策の方向性を整理しました。

また、経営基盤の強化及び財政マネジメントの向上につなげるべく、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」としても位置付けました。

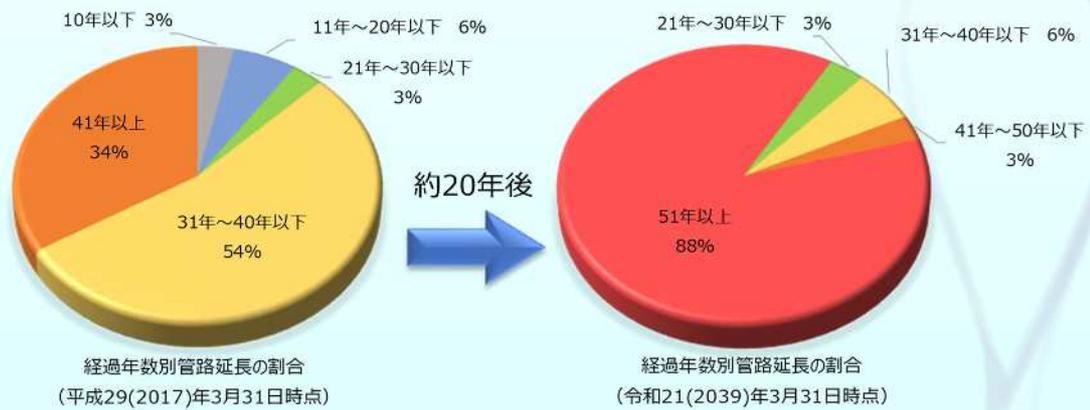


策定の背景 (本編第1章P6)

1) 下水道施設の老朽化

- 標準耐用年数50年を超える管渠かんきょ(下水道管)の割合は、およそ10年後の令和10(2028)年度に約3割、およそ20年後の令和20(2038)年度に約9割となり、老朽化が急速に進行
- 標準耐用年数を過ぎていても劣化が進行していなければ、そのまま使い続けることが可能であるため、管路の状態を的確に把握することが重要

＜経過年数別管路延長の割合＞

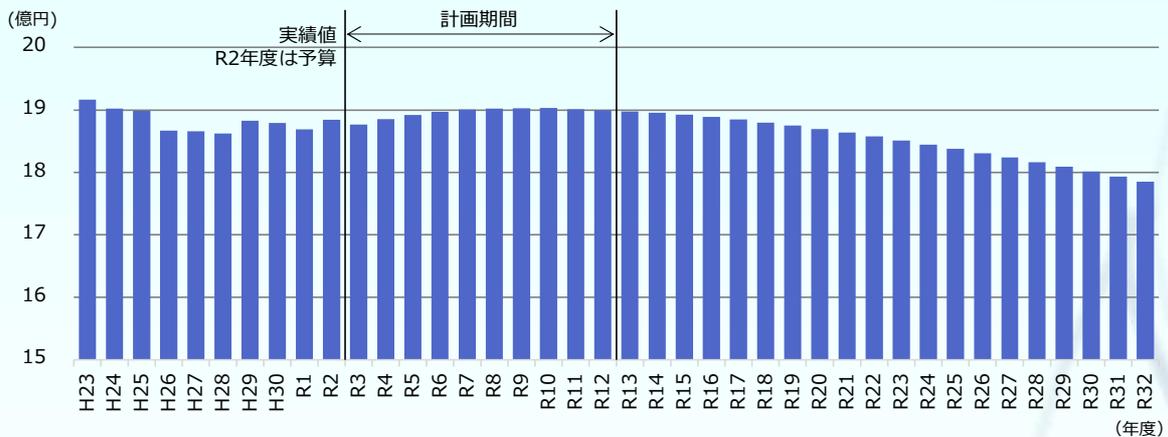


2) 中長期的な人口減少の見通し

- 調布市将来人口推計(平成30(2018)年3月策定)に基づくと、令和10(2028)年度をピークに、人口減少の見通し
- 水洗化率は99.97%に達していることから、人口減少や節水技術の進歩に伴い、中長期的な下水道使用料収入も減少の見通し

＜下水道使用料の見通し＞

(本編第5章P94)

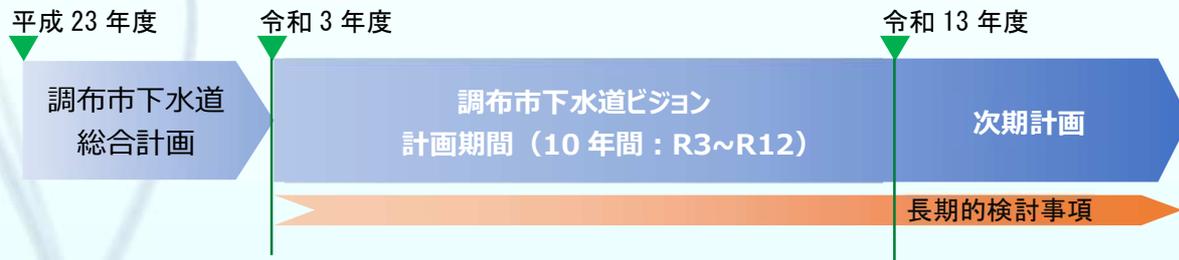


3) 頻発する異常気象・災害

- 近年は、全国各地で大規模な震災や台風・豪雨による風水害が頻発しており、気候変動への適応、激甚化する災害への備えの重要性が更に増加
- 調布市においても、令和元年台風第19号で深刻な被害が発生

計画期間 (本編第1章P15)

令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間



計画の進行管理 (本編第1章P15)

本ビジョン策定後の取組の進捗状況は、主要な施策ごとに定めた目標達成度を評価・検証し、定期的に進捗管理を行い、報告書として公表します。

また、社会・経済の情勢など本ビジョンを取り巻く状況の変化により、見直しを行う必要がある場合は、随時本ビジョンの見直しを行います。

本ビジョンの第5章「投資・財政計画」は、計画と実績のかい離を検証するため、計画期間の中間となる令和7(2025)年度に、本ビジョンとは別に見直しを行います。

基本 理念

(本編第3章P44)

「環境とくらしを守る下水道」

※平成23(2011)年3月に策定した調布市下水道総合計画の基本理念を踏襲

下水道による生活環境の改善、自然環境の保全、浸水被害の軽減などは下水道そのものが持つ基本的な役割であり、「環境とくらしを守る下水道」を基本理念として掲げ、将来にわたって持続的にその役割を果たしていきます。

災害に強く環境を守る下水道施設の機能を維持しながら（施設管理の視点）、非常時にも柔軟な組織の対応力を向上させ（執行体制の視点）、公益性と収益性を両立させる持続的な経営を確立（経営管理の視点）することで、「環境とくらしを守る下水道」を未来へとつないでいくため、新たな基本方針を設定しました。

I 下水道施設の機能維持

～災害に強く環境を守る下水道施設の機能を維持～

[取組の柱]

- ①気候変動による影響への適応策の構築
- ②下水道施設の持続的な維持管理
- ③脱炭素・循環型社会に向けた取組の推進

II 組織の対応力の向上

～非常時にも柔軟な組織の対応力を向上～

[取組の柱]

- ①組織体制の強化
- ②危機管理体制の構築
- ③情報発信の強化

III 持続的な経営の確立

～公益性と収益性を両立させる持続的な経営を確立～

[取組の柱]

- ①経営状況の把握と分析
- ②合理的な経営の推進
- ③中長期的な収支のあり方検討

調布市下水道ビジョンの施策体系

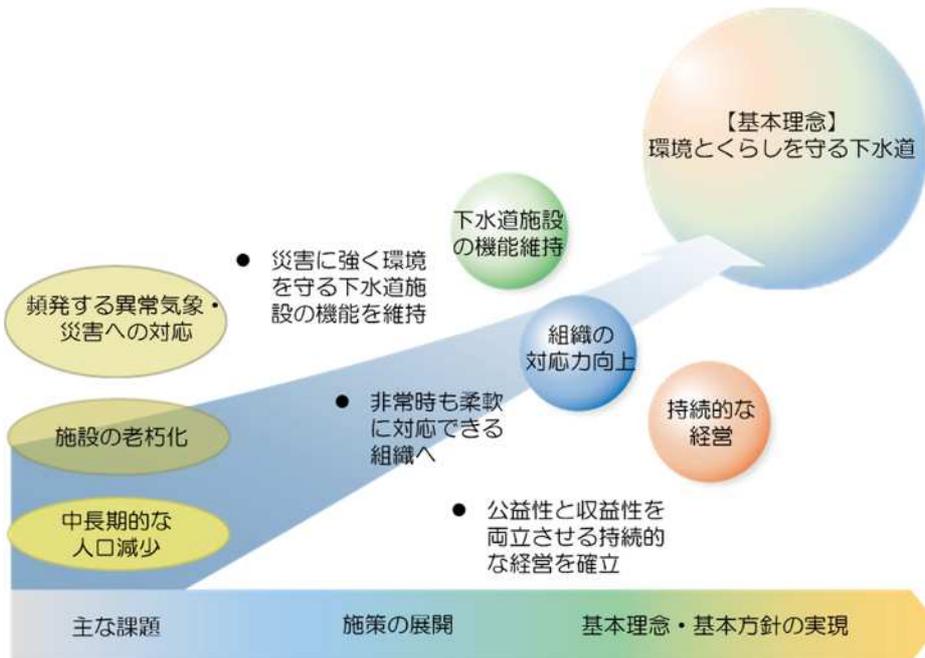
計画期間：令和3(2021)年度
～令和12(2030)年度

基本理念	基本方針	取組の柱	現 状	施策分類	
環境とくらしを守る下水道	I 下水道施設の機能維持	① 気候変動による影響への適応策の構築  (本編P53)	<ul style="list-style-type: none"> ・入間川上流域における浸水被害軽減対策の実施 ・多摩川周辺地域における浸水被害軽減に向けた短期的対策の実施 ・雨水流出抑制(雨水浸透施設の設置促進) 	浸水対策 (本編P53)	
		② 下水道施設の持続的な管理  (本編P57)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震対策に関する基本方針の策定 ・小口径管路(約20km)の耐震化完了 ・新設・改築時における管路の地震対策の実施 	地震対策 (本編P57)	
		③ 脱炭素・循環型社会に向けた取組の推進  (本編P63)	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化対策事業(布田・調布ヶ丘地区)の実施 ・ストックマネジメントへの移行準備 	老朽化・劣化対策 (本編P59)	
			<ul style="list-style-type: none"> ・きょう雑物除去施設や雨水浸透施設の設置 ・資源化製品の利用 ・雨水浸透施設の設置 	合流式下水道改善 (本編P63) 脱炭素・循環型社会への貢献 (本編P64)	
		II 組織対応力の向上	④ 組織体制の強化 (本編P67)	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道整備に応じた職員数の減少 ・公営企業会計への移行等を踏まえた組織体制の見直し 	組織体制 (本編P67)
			⑤ 危機管理体制の構築 (本編P71)	<ul style="list-style-type: none"> ・震災を想定した下水道BCPの策定 ・多摩川周辺地域における浸水被害軽減に向けた短期的対策の実施 	危機管理 (本編P71)
			⑥ 情報発信の強化 (本編P74)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等による情報発信活動 	情報発信 (本編P74)
		III 持続的な経営の確立	⑦ 経営状況の把握と分析 (本編P77)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2(2020)年4月からの公営企業会計への移行 	経営 (本編P77)
			⑧ 合理的な経営の推進 (本編P78)	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道施設の老朽化の進行(昭和40～50年代に集中的に整備) ・下水道台帳管理等への情報通信技術の活用 	
⑨ 中長期的な収支のあり方検討 (本編P81)	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体と比較し、少ない企業債残高・低い下水道使用料単価 処理区域内人口1人当たり企業債残高 約3万円 (類似団体平均:11.0万円) 使用料単価 84円/m³ (類似団体平均:114円/m³) ※平成30(2018)年度実績 				

主要事業 「★新規」は平成22年度策定の調布市下水道総合計画にはない新規事業		主な数値目標
①-1	★ 水害対応に関する個別計画の策定と対策の実施	【雨水浸透施設等の設置による雨水の浸透能力】 基準値 102,666m ³ /h(令和元年度実績) 目標値 163,700m ³ /h(令和12年度)
①-2	★ 国、都、他の自治体等とのハード対策での連携強化	
①-3	雨水浸透施設の設置推進	
②-1	小口径管路の地震対策の推進	既設管路の地震対策の数値目標は、今後、地震対策に関する実施方針を策定した際に設定 ※新設・改築時の管路の耐震化は、毎年度100%の実施を継続 (技術的に困難な場合や緊急を要する場合等を除く)
②-2	中大口径管路の地震対策の推進	
②-3	★ スtockマネジメント計画の推進	【ストックマネジメントにおける管路点検スパン数】 基準値 3,299スパン(令和元年度実績) 目標値 14,400スパン ※市内全域で約22,000スパン 【長寿命化対策・ストックマネジメントにおける既設マンホール蓋交換数】 基準値 1,271箇所(令和元年度実績) 目標値 3,165箇所(令和12年度) ※市内全域で約22,000箇所
②-4	★ 管路施設の点検・調査の強化とデータベース化	
②-5	★ スtockマネジメントにおける民間活力の活用	
③-1	雨天時放流水の水質調査の継続	【雨天時における水再生センターを含む各吐口からの放流水のBOD値(平均放流水質)】 基準値 9.2mg/L(令和元年度実績) 目標値 40mg/L以下
③-2	【再掲】雨水浸透施設の設置推進	
③-3	★ 下水熱利用の可能性検討	【下水道管新設・改築工事における資源化製品の利用率】 基準値 100%(令和元年度実績) 目標値 毎年度100%の継続 (技術的に困難な場合や緊急を要する場合等を除く)
③-4	資源化製品の継続利用	
③-5	【再掲】雨水浸透施設の設置推進	
④-1	★ 人材の確保・育成	【下水道分野の専門研修等の実施・参加数】 基準値 年間11講座(令和元年度実績) 目標値 年間15講座以上
④-2	★ 民間ノウハウの活用	
④-3	★ 広域化・事務の共同化等への対応	
⑤-1	★ 下水道BCPの効果的な見直し	【災害対応訓練の実施】 基準値 年間2回(令和元年度実績) 目標値 年間4回以上
⑤-2	災害対応訓練の強化	
⑤-3	★ 国、都、他の自治体等とのソフト対策での連携強化	
⑥-1	下水道の現状や取組等の情報発信	【新たな広報活動方法の検討・実践】 基準値 年間1回(令和元年度実績) 目標値 年間1回以上
⑥-2	災害時の情報発信の関連部署との連携強化	
⑥-3	★ 経営情報の積極的な公開	
⑦-1	★ 投資・財政計画の効果的な見直し	【投資・財政計画の進捗管理】 目標値 年間1回以上
⑧-1	★ 仙川汚水中継ポンプ場の自然流下化	【経常収支比率】 基準値 91.5%(令和2年度予算) 目標値 100%以上(令和12年度)
⑧-2	情報通信技術・人工知能活用拡大の検討	【経費回収率】 基準値 98.2%(令和2年度予算) 目標値 100%以上(令和12年度)
⑨-1	★ 中長期的な収支のあり方検討	【企業債残高対事業規模比率】 基準値 168%(令和2年度予算) 目標値 300%以下(令和12年度)

基本理念・基本方針の関係イメージ

(本編第3章 P46)



刊行物番号
2020-176

調布市下水道ビジョン 概要版

発行 令和3年3月 調布市環境部下水道課
TEL 042-481-7228~7231 FAX 042-481-7550
E-mail gesui@w2.city.chofu.tokyo.jp